

愛犬の気持ち知っていますか？

～すべては犬を良く知ることから始まる～

ミキコドッグスクール・インストラクター 山本 美貴子先生



プロフィール

- 1968年 京都府に生まれる
- 2001年 自宅にて犬のしつけ方教室の開催を始める
- 2003年 D.I.N.G.O.ドッグトレーニングインストラクター認定取得
- 2008年 トレーニングクラスの受講者数1000組を超える
- 現在 ミキコドッグスクール代表

京都動物専門学校講師 犬学・トレーニング演習担当
 京都市内、京都府内、滋賀県の動物病院・ドッグランなどで犬のしつけ方教室を開催。
 一般的なしつけ方教室の他に、タレント犬講座やドッグダンスレッスン、
 ドッグケアティーカー（ペットシッター）認定講座などを行っており、インストラクターの
 育成にも力を注いでいる。
 京都動物専門学校では、犬学・トレーニング演習を担当
 愛犬はラブラドルのモモとミカン

講演要旨

「そっと傍らに寄り添ってくれる」「疲れた心を癒してくれる」「一緒にフリスビーの大会に出る」など、期待に胸を膨らませ、私たちは犬を飼います。なのにやってきた犬は、そこらじゅうでおしっこをし、家の中の物を破壊し、お散歩で引っ張りまくり、飼い主の体を傷だらけにしたりします。期待はずれどころではない、怪獣が家にやってきたみたいだ！という経験をされた方は多いのではないのでしょうか。

ではこのような怪獣？が家にやってきた時、私たちはどのように接していけばいいのでしょうか。そして、楽しく幸せに暮らしていくためには、何をすればいいのでしょうか。犬という生き物は人間とはものの感じ方も習性も本能も異なっています。そんな犬を家族の一員として迎え入れた時、問題が起こるのは当然のことだと言えます。ですから、犬の習性や本能を大事にしつつ、人間社会のルールを教える「しつけ」が重要なのです。よく誤解されるのですが、「しつけ」は単にオスワリやフセを教えるものではありません。噛んではいけないものを教えたり、してはいけないところでおしっこをしないように教えたり、ブラッシングや足拭きを受け入れるように教えることも「しつけ」なのです。この「しつけ」を上手に効果的に行っていく上で大切なのが、まず「犬という生き物を知る」ということです。犬の事で知っておきたい内容をいくつか紹介します。

1. 犬の性格はどのようにして形成されるのか

犬の性格は、「生まれ持ったもの」と「育ち（環境）」によるもので決まります。この2つのうち、「育ち（環境）」によるものは、私たち飼い主に責任のある部分です。いくら生まれもって性格が良い犬でも、良い環境を整え、良い方法で良い行動を教えていかないと、困った行動を起こすようになってしまうかも知れないのです。

2. 犬の社会化期

犬の社会化期は犬種によっても少し異なりますが、生後約7週令～16週令までくらいとされています。社会化期とは、様々な刺激に慣らしていくのに最適な時期のことです。この時期の経験は、後々の犬の性格に大きな影響を及ぼすことがわかっています。ですからこの時期に、他人に慣らす、他犬（健康な犬）に慣らす、新しい環境に慣らす、グルーミングに慣らすなど、様々な刺激や物に対して大丈夫になっていくように、練習していくことが重要です。

3. 犬の本能について

犬には3つの本能があり、犬の行動は例外なくこの3つの本能に分かれます。捕食本能、危機回避本能、繁殖本能の3つです。捕食本能とは、何かを獲得する本能、危機回避本能とは、危険を察知する、危険から逃れようとする本能、繁殖本能とは、子作りの本能です。人間の動く手や、風に舞う葉っぱなどを追いかけてようとするのは、捕食本能の表れです。ボールを投げたり、おもちゃを引っ張ったりする遊びも実は、捕食本能を使ったものです。玄関先で物音がすると「ワンワン」と吠えることがあるのは、危機回避本能の表れです。お散歩中に良い匂いの所々におしっこをするのは、繁殖本能の表れです。3つの本能を知った上で重要なのは、どの本能を使って犬に行動を教えるか、またはなくすかということです。オスワリやオイデ、アイコンタクトなど良い行動を教えるには基本的には捕食本能を使います。オイデと言われて側に寄って行ったら美味しい食べ物が見えたら、飛びつかないでオスワリしたらボールを投げてもらえたなど、良い行動を教えたい場合は捕食本能を使い、その行動に動機を与えることが重要です。

反対に悪い行動、嫌な行動をなくすには、危機回避本能を使う場合があります。人の手を噛んでしょうがないという時は、噛むと苦いスプレーを手に振っておいて噛んだら嫌なことが起こると学習させます。これは危機回避本能を使ったやり方で、その行動に動機をなくすやり方です。手を噛んでもいいことがない、そして噛まなかったら撫でてもらえるということなどを教えていきます。動機を与えたり、動機をなくしたりするしつけトレーニング法を、モチベーショントレーニング（動機づけによるトレーニング）といいます。これは、科学トレーニングとも言われる方法であり、犬に不必要な痛みを与えず人道的に行う方法、犬の行動学や学習理論を用いた方法です。3つの本能の中で一番強いのは繁殖本能だと言われています。食べ物も食べないで、危険も省みず、繁殖を行おうとする、ということです。ですから、去勢をしないオスの場合、人が飼っていくには飼いにいくなくなる場合があると考えられます（すべてではありません）。



4. 犬のボディランゲージ・シグナルについて

犬は言語によらない意思疎通（ノンバーバルコミュニケーション）を用いる生き物です。不必要な争いを避けて平和に暮らしていくために、日々体を使ってシグナルを出しています。耳の位置、目の動き、口の開け方、体の重心位置、尻尾の位置などで、ある程度の気持ちを読み取ることが出来ます。私たち人間がそのシグナルを読めるようになってくれば、もっと犬の気持ちを理解することが出来、楽しく過ごすことが出来るはずですよ。

ご紹介した内容以外にももっとたくさんの犬についての情報があります。私たち人間はもっと犬の事を知るべきではないのでしょうか。犬の事をよく知って、知った上で愛犬と接してみれば、愛犬との暮らしがもっと楽しいものになるはずですよ。